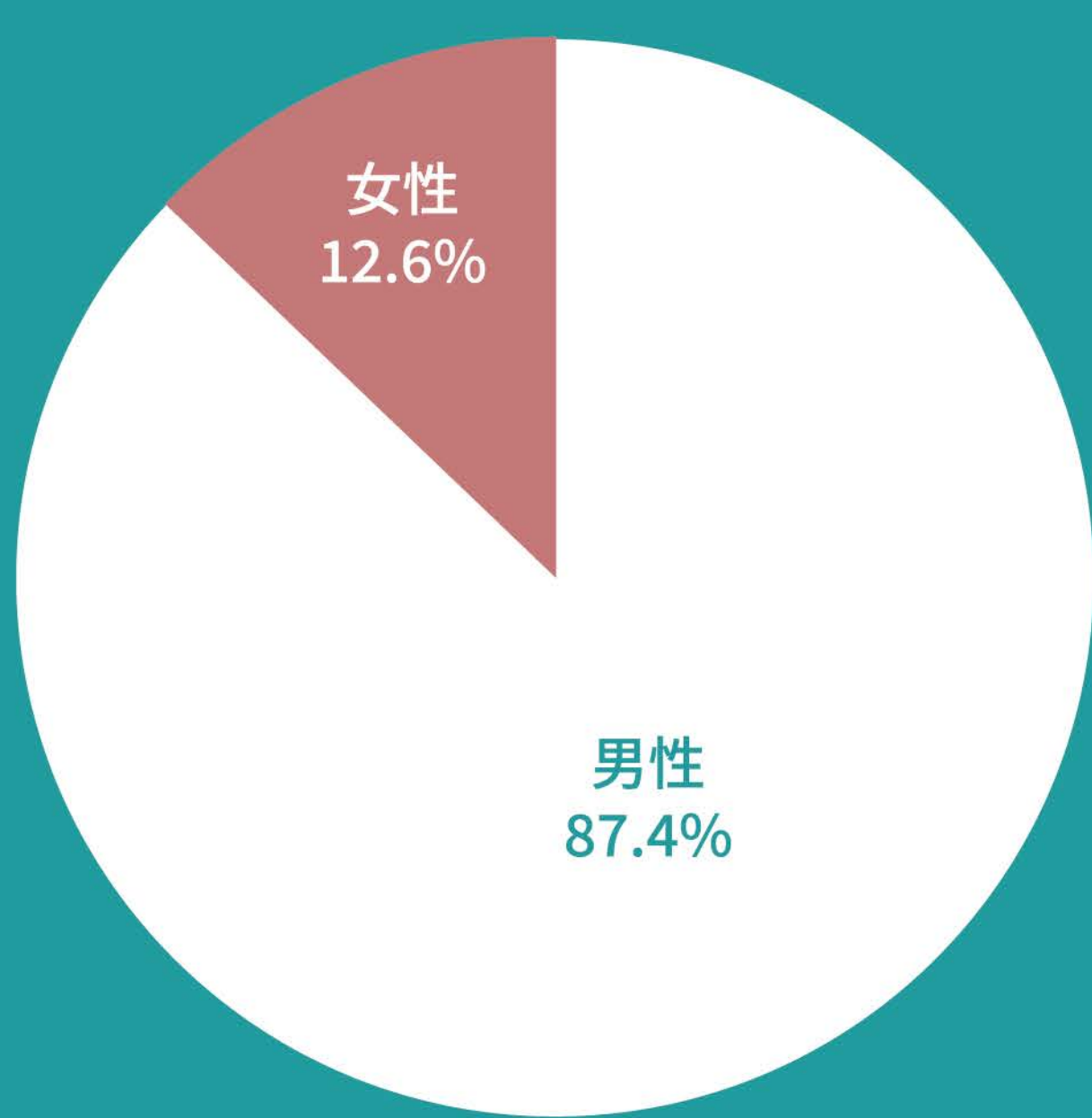


企業のステークホルダーに、“子ども”を加えたら。

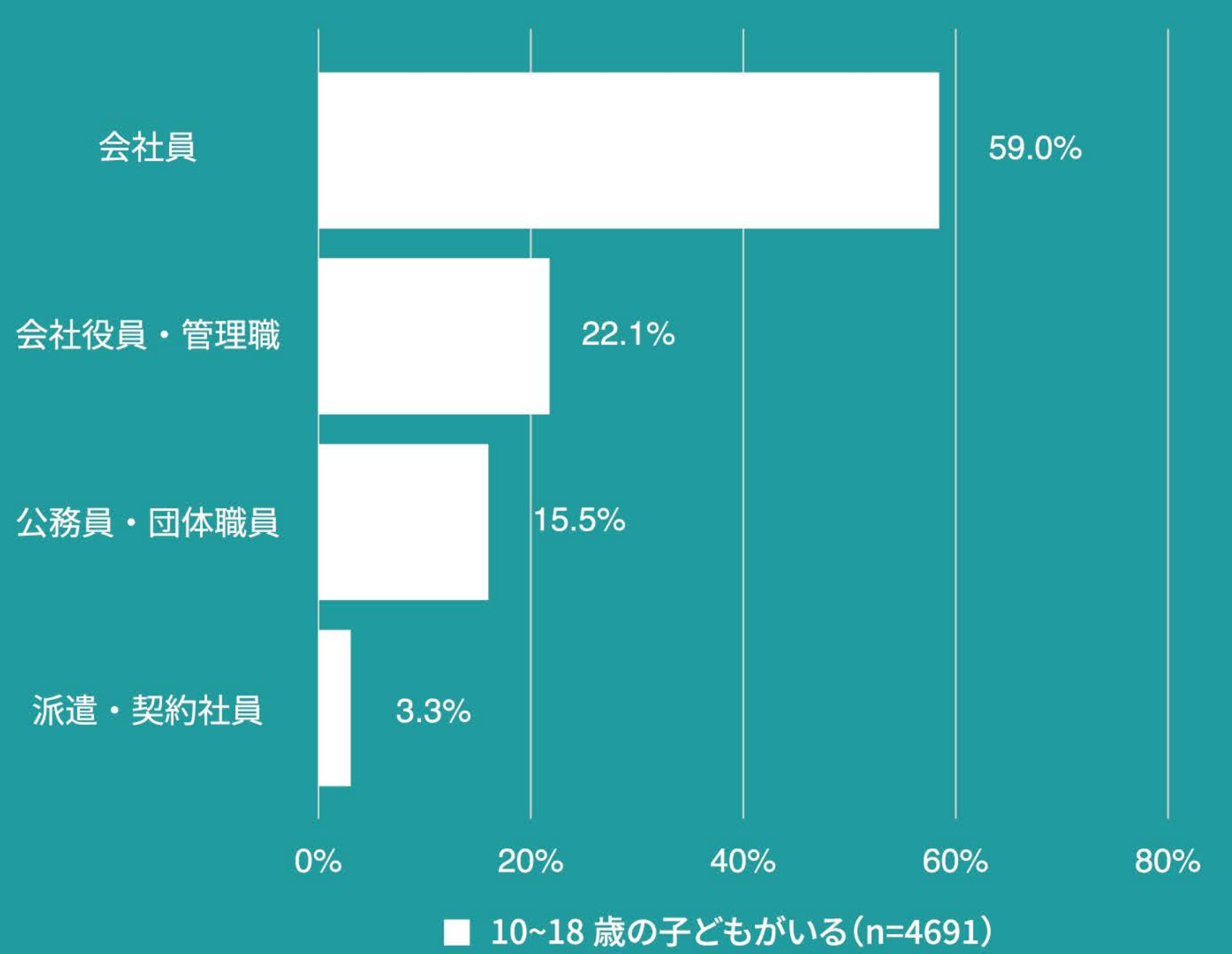
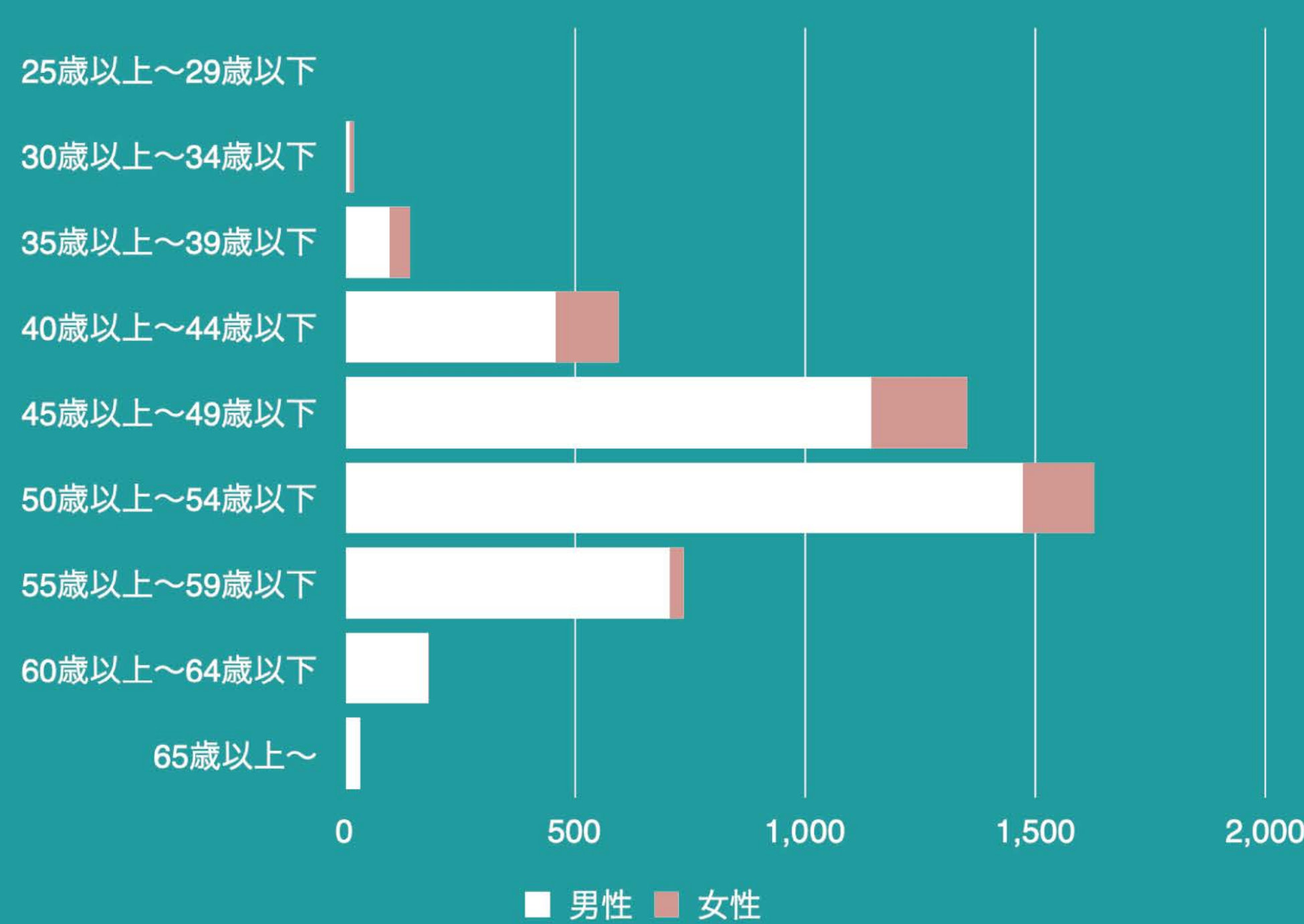
私たちは、ビジネスでは外側の存在として語られがちな「子ども」に、企業が与えるインパクトについて研究しています。その一環として、従業員のウェルビーイングと、その人と子どもとの対話の状況や、子どもからどう見られていると感じるか、という点に着目した調査を行いました。

第一弾は、10 ～ 18 歳という年齢層の子どもおよびその親に注目しました。自らの進路選択時期を控え、一番身近な大人である親の仕事にも興味関心を持ち、親に対する一定の見方を有していると考えられるためです。

アンケートの結果、組織で働くビジネスパーソンのうち、10 ～ 18 歳の子どもがいる回答者の属性は、男性：87.4%、平均年齢：約 50 歳、会社役員・管理職：約 20% と、これまでの子育て施策ではあまり見かけない対象が見えてきました。会社役員・管理職も多く、個人の幸せにとどまらない、企業文化を育む可能性を秘めています。



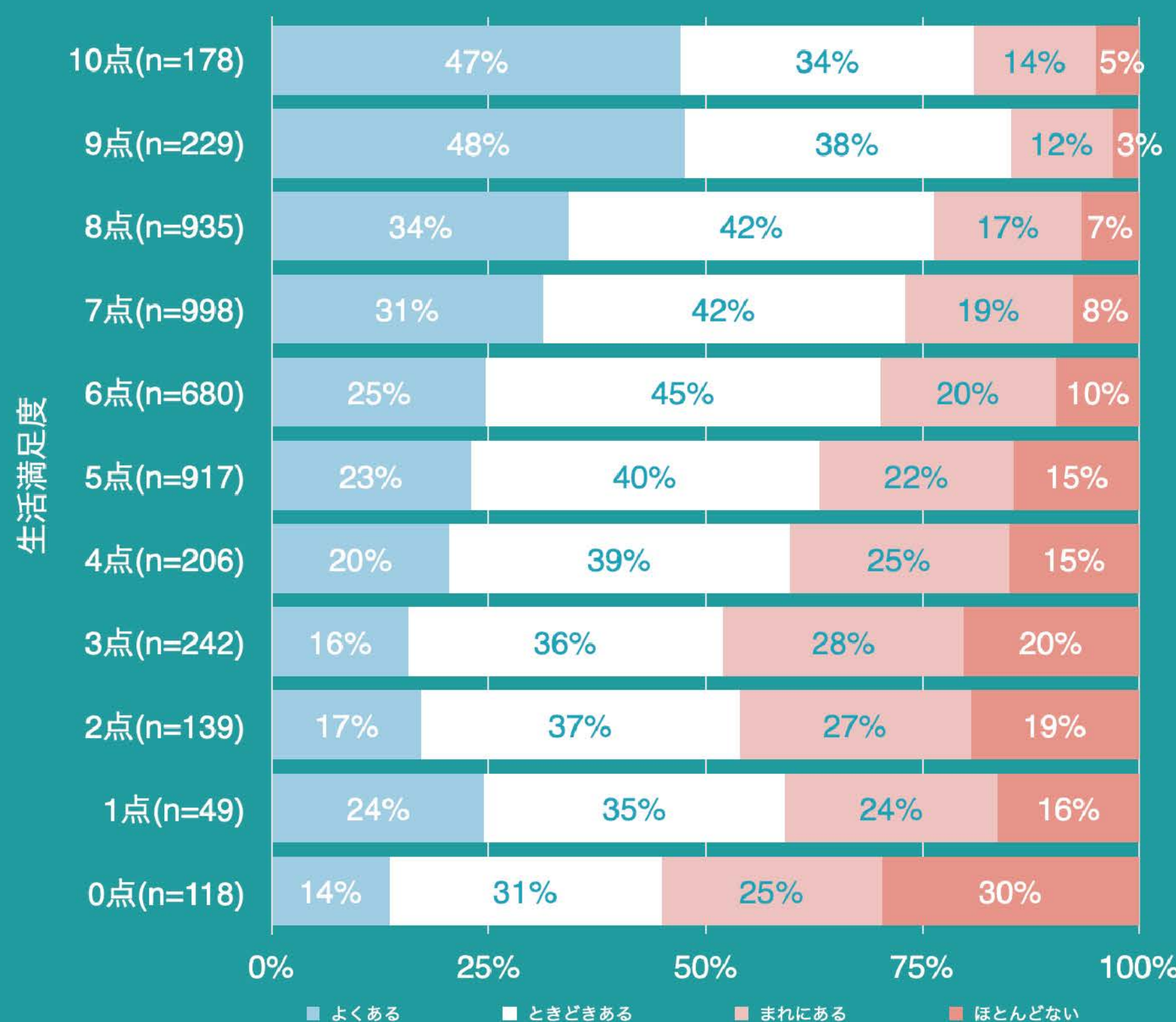
10～18 歳の子どもがいる (n=4691)



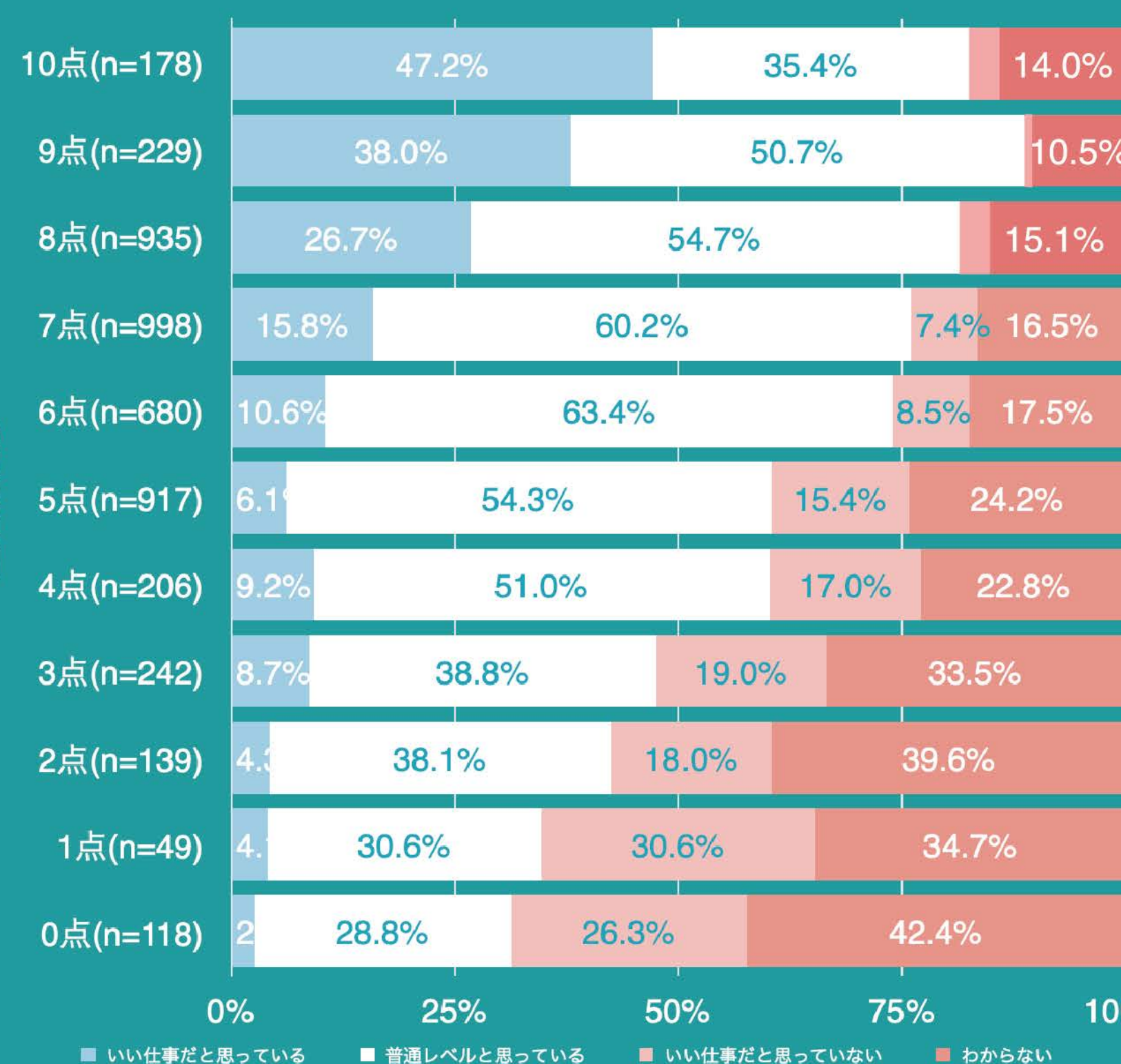
あなたは、仕事のある平均的な 1 日に、子どもと 30 分以上の団らんをすることが、どれぐらいありますか。【単一回答】

あなたの子どもは、あなたの仕事をどう思っていますか。【単一回答】

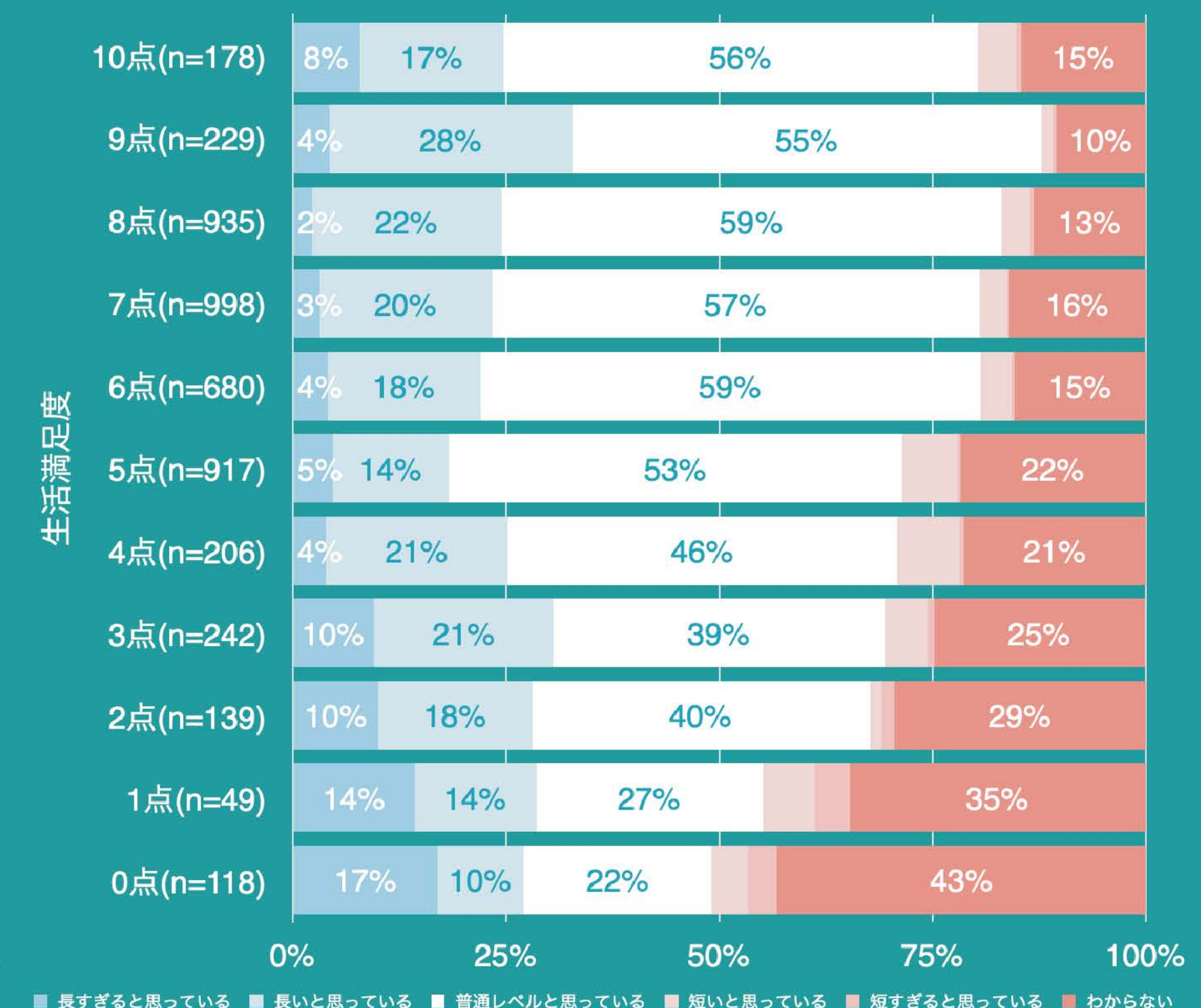
あなたの子どもは、あなたの働く時間についてどのように考えていますか。【単一回答】



生活満足度



生活満足度



生活満足度

団らんが「よくある」と生活満足度が高くなる傾向

子どもからの評価を「いい仕事と思っている」とした回答者は生活満足度が高くなる傾向

働く時間が「長すぎる / 長いと思っている」とした回答者は生活満足度が高い層・低い層に分かれる傾向

また働く意味は、子どもとの関わりによって影響され、大人・子ども両者にとっての仕事の価値をそっと形づくっているかもしれません。今後は企業それぞれの、実践的な施策について研究を進めていく予定です。